

第 12 回 (平成17年度)
千葉県建築文化賞
表彰作品集

2005年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

平成17年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、すぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第12回目となる今年度は、92点に及ぶ多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞6点及び建築文化奨励賞1点を決定いたしました。

受賞作品は、自然景観と調和した親しみやすい地域開放型の施設、中庭などを巧みに活用し、入居者が生き生きと生活できる心地よい環境を実現しているユニバーサルデザインに配慮した施設、屋上緑化、雨水利用、自然通風などを活用し、環境へ配慮した施設、地元の木材を使用し、住まいづくりを通じて地域再生に関わろうとする住宅など、いずれも平成17年度の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係の皆様の情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物は、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

県といたしましても、ユニバーサルデザインによる建築物の整備、環境にやさしい建築物の整備など、県民一人ひとりが安全で安心に暮らせる街づくりを推進しております。こうした取り組みを通して、豊かさを実感し、夢と希望、自信と誇りが持てる千葉県づくりを、600万県民の皆様と進めていきたいと思っています。

結びに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、選考委員、共催団体など関係の皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	… 1	選考経過と総評	… 2
城西大学鋸南セミナーハウス(Ⅰ期)	… 3	東京理科大学薬学部新キャンパス	… 4
AIRHUT	… 5	特別養護老人ホーム市原園・軽費老人ホーム湊泉荘	… 6
日本大学理工学部船橋校舎14号館	… 7	マブチモーター株式会社本社棟	… 8
宇津木邸	… 9	応募(推薦)建築物一覧	… 10
千葉県建築文化賞選考委員会	… 10		

応募92点から7点入賞(選考経過と総評)

(選考経過)

千葉県建築文化賞は今回で12回になる。第1回の平成6年はバブル崩壊の直後にあたり、過熱化した開発のなかで流行商品のように消費された建築の社会的使命を回復し、快適な街づくりに結びつけていくことが、本賞創設の目的のひとつであった。そして、今回の平成17年は、首都圏を中心にマンション業界がミニバブルに沸き立つなかで、耐震強度偽装という信じがたい事件が勃発した。安全性は建築の原点である。私たちは、建築の社会的使命を真摯に問い直し、うるおいとやすらぎに満ちた街づくりを進めなければならない。本賞が、安全で安心な暮らしを支え、より豊かな環境をはぐくむ建築を表彰することによって、建築への信頼回復にいささかでも貢献することを願ってやまない。

第12回千葉県建築文化賞は平成17年7月の委員会で募集要領を定め、8月から9月中旬まで応募を受け付け、総数92点の

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

応募をいただいた(部門別内訳は下表のとおり)。昨年を30点近く上回る作品をお寄せいただいた関係者の熱意に深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門4点、環境部門4点を選んだ。次いで11月中旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞6点、建築文化奨励賞1点を表彰候補作品として決定した。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		58	5	3	—
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		15	4	1	—
環境に配慮した建築物		19	4	2	1
合 計		92	13	6	1

(総 評)

景観に配慮した建築物

応募58点は、いずれも景観形成への注意深い配慮を感じさせるものであったが、今回は教育施設や住宅に好感の持てる作品が多かった。

「城西大学鋸南セミナーハウス(Ⅰ期)」は、街と海を見晴らす山の上の中学校跡地をそのまま活かし、自然景観と調和した、きめ細かく親しみやすい地域開放型の施設を実現している。「東京理科大学薬学部新キャンパス」は、既存の自然環境を活かし、周到的な配置計画とデザインによって快適な研究・学習環境を実現している。「AIR HUT」は、住宅街に建つ診療所付きの住宅であり、ユニバーサルデザイン部門の応募作品だが、端正なデザインと街の思い出に配慮した敷地計画が景観面で高く評価された。この結果、3点が建築文化賞とされた。

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

この部門は、前回までの高齢者・障害者等に配慮した建築物の部を発展させ、今回新たに設けられたものである。応募は15点であり、福祉施設以外に専用住宅や病院診療所に意欲的な作品が見られた。

建築文化賞の「特別養護老人ホーム市原園・軽費老人ホーム湊泉荘」は、延床面積7,000㎡を超える大規模な施設だが、中庭と光庭を巧みに使って2階建ての建物を分節し、入居者が生き生きと生活する心地よい環境を実現している。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は19点であり、今回は比較的規模の大きな作品が委員の注目を集めた。

「日本大学理工学部船橋校舎14号館」は、複層ガラスの多用による昼光利用、自然換気、屋上緑化、雨水利用、クール・ウォームチューブなどを活用し、環境に総合的に配慮している。「マブチモーター株式会社本社棟」も、ダブルスキンカーテンウォールを利用した空調負荷低減と自然通風、建設残土を活用し自然に任せたランドスケープなど、環境への総合的配慮が高く評価された。この結果、2点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「宇津木邸」は、地元の木材を使って地元で技能者がつくる「地域循環型」の住宅であり、住まいづくりを通じて地域再生に関わろうとする意欲が共感を呼んだ。

選 考 の 基 準

- 千葉県内において、平成12年4月1日から平成17年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰趣旨にそっているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺の環境に十分配慮され、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②誰もが公平に、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、社会への参加や日常生活が容易に出来るような環境整備がされているもの。
 - ③エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。